治水

発　行　全国治水期成同盟会連合会
東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電　話　03(3222)6663　FAX　03(3222)6664
ホームページ　https://zensuiren.org/
お問い合わせ　info@zensuiren.org
編集・発行　椿本和幸

紅葉の十和田湖（青森・東北大会）

海越しの立山連峰（富山・北陸大会）

伊勢内宮前　おかげ横丁（三重・中部大会）

奈良公園紅葉の様子（奈良・近畿大会）

出雲大社神楽殿（島根・中国大会）

にこ淵　仁淀川支川（高知・四国大会）

目　次

「流域治水」の推進と事前防災の加速……2
国土交通省水管理・国土保全局長　井上智夫
河川愛護月間をかえりみて……4
東北地方治水大会の開催について……5
北陸地方治水大会の開催について……7
中部地方治水大会の開催について……9
近畿地方治水大会の開催について……11
中国地方治水大会の開催について……13
四国地方治水大会の開催について……16

「流域治水」の推進と事前防災の加速

国土交通省水管理・国土保全局長　井上（いのうえ）　智夫（ともお）

8月1日付で水管理・国土保全局長を拝命しました井上です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、今般の令和2年7月豪雨により、九州地方を中心とした各地で甚大な被害が発生しました。この災害により、犠牲となられた方々に対して謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

水管理・国土保全局では、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等の近年の水災害を受け、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえた新たな水災害対策を進めていく必要があります。

令和2年7月に社会資本整備審議会より頂いた答申を踏まえ、気候変動に伴い頻発・激甚化する水害・土砂災害等に対し、防災・減災が主流となる社会を目指し、「流域治水」の考え方に基づいて、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる全員で水災害対策を推進してまいります。

まず、過去の降雨や高潮等の実績に基づいた計画を、将来の気候変動を踏まえた計画へと見直すことが必要です。水災害を防御する計画はこれまでの過去の降雨や潮位などの実績に基づいて作成しており、将来の気候変動の影響による水災害の激甚化を考慮すると、現在の計画による整備完了時点では、計画策定時点で目標としていた安全度が実質的に確保できないおそれがあります。そのため、河川整備基本方針等を気候変動による降雨量の増加や潮位の上昇などを考慮した計画とする見直しに速やかに着手し、進めてまいります。

さらに、河川の流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」を推進することが必要です。人口減少や少子高齢化が進み、「コンパクト・プラス・ネットワーク」を基本とした国土形成により流域の土地利用が大きく変わろうとし、5GやAI技術やビッグデータの活用など情報通信技術の進展も著しいなど、社会が大きく変化しています。このような社会の変化や気候変動も踏まえ、河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その流域全員が協働して、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策、の3要素を総合的かつ多層的に進める「流域治水」に流域一体となって取り組み、出来る限り事前の備えを充実させる事前防災対策を加速してまいります。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策においては、堤防やダム・遊水地の整備、雨水幹線や地下貯留施設の整備といったような管理者主体の取組を強化するとともに、これまで氾濫を防ぐ対策に直接は関与してこなかった関係者や住民にも協力を求めて、被害軽減のために取り組むことが重要です。例えば、洪水時に一時的に流域内で雨水を貯留できるよう、調節池の整備や既存のため池や田んぼを活用した流出抑制対策を進めてまいります。また、政府の「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」に基づき、関係省庁と緊密に連携しつつ、利水者等と調整の上、利水のための貯水をあらかじめ放流する事前放流の取組を抜本的に拡大し、一級水系ではダムのある99水系全てで令和2年6月から新たな運用を開始しました。また、一級水系のみならず、二級水系においても同様の取組を進め、近年水害が生じた水系や貯水容量の大きなダムがある86水系において、8月までに治水協定を締結し、運用を開始しています。

被害対象を減少させるための対策においては、河川が氾濫した場合でも、人的被害や経済的ダメージを最

小化させるために、平時から、水災害リスクが高い区域からより低い区域に居住や都市機能を誘導していくとともに、氾濫水を拡大させないことも重要です。例えば、市街化調整区域においては、浸水想定区域等のうち人命に危険を及ぼす可能性が高いエリアにおいて、住宅等の開発許可を厳格化し、居住誘導区域等の指定にあたっては、より水災害リスクの低い区域を選定するとともに、居住誘導区域等における水災害リスクの軽減対策を強化します。治水部局と都市部局が連携を強化し、治水部局が有する各種ハザード情報を都市部局が行う具体的なまちづくりに反映し安全なまちづくりのための総合的な対策を講じてまいります。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策においては、氾濫が発生し、一定の被害が不可避となった場合でも、迅速な避難により人命を守るなど被害を最小限に食い止める警戒避難体制の充実に加え、災害応急対策の対応体制の強化も重要です。例えば、令和2年7月豪雨では、発災直後から緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣し、のべ約1万人の隊員が被災地で活動しました。活動に必要な災害対策用資機材の更なる充実に努めるとともに、訓練や研修等を充実し、隊員の能力向上を図っています。さらに、建設業者等が一体的に活動できるよう、連携体制の強化など更なる体制・機能の拡充・強化に取り組んでまいります。

令和元年東日本台風により甚大な被害の発生した7水系（阿武隈川、鳴瀬川水系吉田川、久慈川、那珂川、荒川水系入間川、多摩川、千曲川を含む信濃川）においては、再度災害を防止するための緊急的に実施すべき対策の全体像を明らかにした「緊急治水対策プロジェクト」に基づいて、国、都県、市区町村のみならず流域の様々な関係者が連携し、「流域治水」の考え方を取り入れた対策を先行的・集中的に実施しております。7水系以外においても、どこで豪雨による甚大な災害が発生してもおかしくない状況であることから、全国の一級水系においても同様に、流域全体で早急に実施すべき河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、国民にわかりやすく提示します。そのため、国・都道府県・市町村等との協議会を設置し、議論を進め、令和2年度末までに「流域治水プロジェクト」として策定してまいります。

気候変動の影響により自然災害の頻発・激甚化が懸念されているところですが、被災地の早期復旧・復興を進めるとともに、今後も国民の生命と財産を守るため、気候変動による影響を踏まえた「流域治水」を推進し、事前防災を加速してまいります。皆様の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

河川愛護月間をかえりみて

国土交通省　水管理・国土保全局　治水課

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、規模を縮小するなど実施内容を見直した部分もありますが、「せせらぎに　ぼくも魚も　すきとおる」を推進標語として、各地方整備局、都道府県、市町村が主体となり、全国各地でポスター、チラシ等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦等、多様な活動が、地域住民、河川愛護団体、関係行政機関等の協力を得て実施され、多数の方々の参加をいただきました。

月間中に行われた行事等の成果を踏まえて、今後とも、地域住民、市民団体等と協力した流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、年間を通して、国民の河川愛護意識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

また、これらの活動に加え、河川愛護月間推進特別事業として、「川遊び～川での思い出・川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせて描いた絵手紙の募集を9月30日まで行っており、関係機関誌等を通じ、引き続き広く募集活動を行っております。

募集についての詳細は、国土交通省水管理・国土保全局ホームページ中『河川愛護月間』(http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html)に掲載しております。

カヌー体験

安全講習会

河川の安全点検

河川一斉清掃

東北地方治水大会の開催について

令和2年10月27日（火）　13：30～
青森市　ウェディングプラザアラスカ
青森県県土整備部河川砂防課

今年度の東北地方治水大会事務局を担当している青森県から、本県のPRも含めご案内申し上げます。

【青森県のすがた】

青森県は本州最北に位置し、ニューヨーク、北京、ローマ、マドリードとほぼ同緯度に位置しています。北は津軽海峡を隔てて北海道と対し、南は秋田、岩手両県に接するほか、東は太平洋、西は日本海に面し、三方を海に囲まれています。総面積は約9,646㎢で、全国第8位の広さを誇っており、その約7割を山地丘陵地が占めています。

県の中央部には奥羽山脈が南北に走り、八甲田連峰などの中央山地を形成しており、これを挟んで日本海側には白神山地や津軽半島、太平洋側には八甲田山系東部の丘陵台地と下北半島があり、さらに津軽半島と下北半島に囲まれるように陸奥湾があります。

このように、海域や地形が複雑なことから、同じ県内でも、地域によって気候が大きく異なります。中でも、冬季における津軽地方の大雪と、夏季における太平洋側を中心とした偏東風（ヤマセ）が代表的な違いとなっています。

また、青森県には世界自然遺産の白神山地や、十和田八幡平国立公園、平成25年に創設された三陸復興国立公園などの自然公園が点在しています。中でも、十和田八幡平国立公園に位置する十和田湖、奥入瀬渓流には、紅葉のシーズンを中心に多数の観光客が訪れています。

紅葉の十和田湖

【河川の現況】

青森県には、世界遺産白神山地を源とし、津軽平野を流下して日本海にそそぐ岩木川、景勝地十和田湖に源を発し、太平洋へそそぐ奥入瀬川など、大小合わせて290河川あり、その水資源は発電、かんがい、上水道等に幅広く利用されています。

本県が管理する一級河川は、岩木川水系93河川、馬淵川水系13河川、高瀬川水系23河川の合計129河川、総延長は約918㎞となります。また、二級河川は、堤川水系、奥入瀬川水系、新井田川水系など79水系の157河川あり、総延長は約1,003㎞となります。

このうち、県管理河川の要改修延長は1,216.5㎞で、県施行の改修事業としては、昭和21年着手の平川や昭和26年着手の十川などの整備を進めており、令和元年度末までの整備率は39.3%となっています。

【近年の災害】

本県における近年の主な災害は、平成25年9月の台風第18号の影響によるものであり、県内の広い範囲で浸水被害や土砂災害が発生しました。

中でも馬淵川流域では、総雨量180㎜を超える降雨を観測し、馬淵南部水位観測所において、氾濫危険水位6.14mを大きく上回る9.05mの既往最大水位を記録しました。このため沿川では浸水面積約472ha、床上浸水178戸の被害が発生し、住民生活に大きな影響を及ぼしました。

この台風による県全体の公共土木施設災害は406箇所、被害額は約37億円に上りました。

平成25年台風第18号による馬淵川浸水状況（南部町虎渡地区）

【主な治水事業】

（1）馬淵川広域河川改修事業

馬淵川ではこれまでに幾度となく洪水による浸水被害を受けていたことから、県では「土地利用一体型水防災事業」、「床上浸水対策特別緊急事業」などを進めてきましたが、平成25年9月の台風第18号による豪雨災害を受け、平成26年度からは「広域河川改修事業」により堤防の新設・嵩上げなどの対策を集中的に進めています。

（2）下北八戸沿岸地区地震・高潮対策河川事業

太平洋沿岸の八戸市・おいらせ町では、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、広範囲に渡る浸水被害が発生しました。今後も日本海溝・千島海溝型地震の発生が予測されることから、下北八戸沿岸地区の3河川（五戸川、奥入瀬川、明神川）において、平成23年度より地震・高潮対策河川事業に着手し、河川堤防の耐震液状化対策や堤防嵩上げによる津波対策を進め、今年度完成の見込みです。

五戸川河口部の津波被害状況（平成23年3月12日撮影）

（3）駒込ダム建設事業

青森市街地はこれまで堤川の氾濫により、昭和44年8月、昭和52年8月、平成11年10月と度重なる洪水被害を受けてきました。特に昭和44年8月の台風第9号による大雨は、堤川の本・支川で氾濫を引き起こし、浸水家屋8千戸を超える未曾有の大水害となりました。

そこで青森県では、堤川水系の抜本的な治水対策として、河道整備と併せて堤川本川に下湯ダム（昭和63年度完成）、駒込川に駒込ダム、横内川に横内川多目的遊水地（平成15年度完成）を整備して、堤川水系の治水安全度を概ね1/100まで向上させる治水計画を立案し、計画的に整備を進めてきました。

現在建設を進めている駒込ダムは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電を目的とした、堤高84.5m、堤頂長290.1m、堤体積317,000㎥の重力式コンクリートダムです。

本事業は、昭和57年度に実施計画調査に着手、平成5年度に建設事業採択、平成31年度に本体建設工事着工となり、令和13年度の完成を目指して進めています。

駒込ダム（完成イメージ）

【東北地方治水大会の開催】

今年度の東北地方治水大会は10月27日(火)に青森市で開催されます。

開催地の青森市にある国内最大級の縄文集落遺跡である特別史跡「三内丸山遺跡」は、縄文時代中期から後期に栄えた集落跡で、多くの竪穴式住居跡や、貴重な土器、石器、土偶などがご覧いただけます。

また、三方を海に囲まれ、豊かな自然が残る本県は、新鮮な海の幸・山の幸のほか、多くの名産品もございますので、是非、この機会にご堪能いただきたいと思います。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年よりも規模を縮小して開催させていただくことをご了承下さるようお願い申し上げます。

三内丸山遺跡

北陸地方治水大会の開催について

令和2年10月13日（火）　13：10～
黒部市　ホテルアクア黒部　２階　咲耶
事務局：富山県土木部河川課内

令和2年度の北陸地方治水大会の事務局を担当します富山県から本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【富山県のすがた】

富山県は、南北にのびる日本列島の中心、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接しています。

本県は、三方を急峻な山々にかこまれ、深い湾を抱くように平野が広がっており、富山市を中心に半径50㎞というまとまりのよい地形である一方、3,000m級の山々が連なる立山連峰から水深1,000mを超える富山湾に至るまで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ地形を有しており、植生自然比率本州一が示すように、美しく豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりが鮮明で、多種多様な動植物が見られます。また、天然の巨大ダムともいえる山々からは、1年を通じて豊かできれいな水が生まれ、水力発電、各種用水など多目的に利用されており、暮らしや産業を支える重要な資源となっています。

このような世界的に見ても稀有な景観・地形が評価され、富山湾は、フランス・モンサンミッシェル湾、ベトナム・ハロン湾などの世界遺産に選定されている湾と並び、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しており、令和元年10月には世界総会が開催されました。

さらに、富山県は、その豊富で清らかな水を活かした米どころとしても知られ、良質米として評価の高いコシヒカリはもとより、平成30年には新品種「富富富」が本格デビューしました。また、チューリップ球根の出荷量が日本一の産地でもあり、伝統ある定置網漁法による漁業も盛んです。そして、質の高い労働力、豊富な電力と水、充実した物産・交通網、ものづくりの伝統、日本海側屈指の工業集積など優れた産業基盤があります。

本県は、「くすりの富山」として全国に知られる医薬品産業のさらなる発展や新たな成長産業の育成・振興により、「ものづくり県」として一層の飛躍を目指しています。

海越しの立山連峰

【富山県の河川の現状及び取組】

富山県には、一級河川5水系216河川、二級水系30水系102河川が流れており、その全延長は1,649㎞に及び、そのうち1,482㎞を県が管理しています。県管理河川で改修が必要な延長は743.8㎞であり、うち417.5㎞（整備率56.1％）の整備が完了しています（令和2年4月1日現在）。

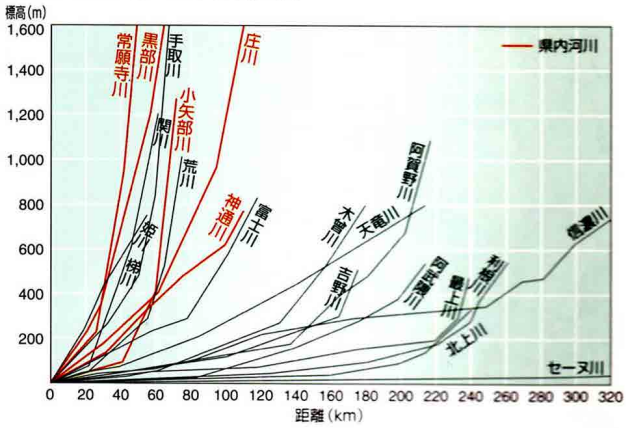
3,000m級の北アルプスや周囲の山々から一気に富山湾へと注ぐ富山の河川は、全国的にみてもまれな急流となっており、豊かな水資源に恵まれている一方で、古くから急流河川の氾濫による水害に悩まされてきました。度重なる水害から暮らしを守るため、戦国時代から堤防を築いたり、河川改修工事を行うなど、治水が富山を治めるための最大の課題となっていました。明治16年（1883）に富山県が石川県から分県したのも、治水事業がきっかけであり、特にかつて大災害を引き起こした常願寺川などの一級河川の治水・砂防工事をはじめとして、県内各地で長年にわたって河川整備が進められてきました。

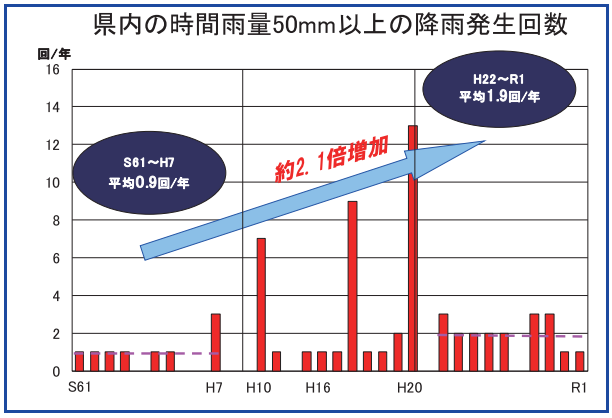
近年では、局地的な豪雨が頻発しており、県内の時間雨量50㎜以上の降雨発生回数は、昭和61年から平成7年の平均0.9回／年に対し、平成22年から令和元年は平均1.9回／年と、約2.1倍に増加し、中小河川において多くの浸水被害が発生しています。特に平成20年には南砺市、平成26年には魚津市において記録的な集中豪雨に見舞われ、住宅の浸水被害や土砂災害など、県民の暮らしに直結する被害が発生しました。

このため、本県では、各河川において、堤防の強化、川幅の拡幅、放水路の整備などを計画的に実施し、安心で安全な川づくりを進めています。

また、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する「多自然川づくり」を推進しています。

世界的にも有数な急流河川群





【北陸地方治水大会の開催】

本大会は、10月13日（火）に『大自然のシンフォニー　文化・交流のまち　黒部』において開催します。

黒部市は、先人の英知と市民の皆さまのたゆまぬ努力、そして日本一の清流黒部川の偉大な恩恵に育まれ、富山県東部の中核都市として着実に発展を遂げてきました。

秘境黒部峡谷と宇奈月温泉、名水百選認定の黒部川扇状地湧水群、神秘の海富山湾など、山・川・海に至る類まれな大自然を背景に、YKK株式会社はじめ世界に冠たる技術を有する多くの企業が立地するとともに、農業、漁業が盛んであり、また、新川医療圏の中核的役割を担う黒部市民病院と広域消防本部の立地、国際化教育や福祉・子育て環境の充実等により、「住みよさランキング」（2019）で全国7位/812自治体の評価を受けています。また、2015年3月には、念願の北陸新幹線が金沢まで開通し、本市には黒部宇奈月温泉駅が設置されたことから、東京まで2時間余りで結ばれました。

ここで、ほんの一部ですが、黒部市の見どころなどをご紹介しましょう!

春には、黒部峡谷を貫くトロッコ電車の開通により雪解けの黒部川の急流と新緑の山々が人々を出迎えます。くろべ牧場まきばの風においては日本海を一望できるロケーションをお楽しみください。また、北陸最大級のフルマラソン「カーター記念黒部名水マラソン」が開催されます。夏には、黒部川でのラフティング・キャニオニング、石田浜でのマリンレジャーや生地海上花火大会でたくさんの方が盛り上がります。秋には、黒部峡谷の紅葉が人々の心を癒し、宇奈月温泉街全域にモーツァルトの音色が響き渡る音楽祭も開催されます。冬には、宇奈月温泉スキー場でのウィンタースポーツや雪のカーニバルが開催されるなど、四季折々の風情を存分に堪能していただくことができます。さらには、年間を通じ、日本ジオパーク認定のジオサイトや、黒部の名水、黒部米、名水ポーク、紅ズワイガニ、地酒、地ビールに代表される多くの黒部ならではの産品が皆さまに感動と喜びを与えてくれるでしょう!

皆さま方にもぜひお越しいただき、大自然と文化に育まれた黒部市の様々な魅力に触れていただければ幸いです。

黒部峡谷トロッコ電車

中部地方治水大会の開催について

令和2年10月19日（月）　15：00～
津市久居アルスプラザ　ときの風ホール
事務局：三重県県土整備部河川課内

令和2年度の中部地方治水大会の事務局を担当します三重県から本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

三重県では来年、国民体育大会である三重とこわか国体、全国障害者スポーツ大会である三重とこわか大会が開催されます。大会の本県開催を千載一遇のチャンスと捉え、スポーツを通じて地域に活力が生まれることを大いに期待しています。また、三重県の美しい自然と豊かな伝統や文化を全国に発信することができる絶好の機会でもあります。

三重県は、日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、東西約10～80㎞、南北約180㎞で南北に長い県土となっています。中央部を流れる櫛田川に沿って日本で一番大きな断層の中央構造線によって、北部地域、南部地域に県土が分けられます。北部地域は東に伊勢湾を望み、北西には養老、鈴鹿、笠置、布引等700～800m級の山地、山脈が連なっています。一方、南部地域の東部にはリアス式海岸が志摩半島から熊野灘に沿って紀伊半島東部を形成し、西部には紀伊山地が形成されています。

県内を流れる河川は、一級河川7水系363河川、二級河川73水系192河川があります。このうち、国が一級河川7水系37河川、延長約234㎞を管理し、県は一級・二級あわせて80水系546河川、延長約2,310㎞を管理しています。

また、三重県は、温暖な気候を有する反面、地理的に台風の経路となることが多く、これまでにも台風による大きな被害を受けてきました。

特に被害が大きかった災害には、昭和34年9月26日の伊勢湾台風があります。この時は強風による吹き寄せと低気圧による吸い上げによって起こった高潮により、県内で死者・行方不明者1,233人、負傷者5,688人という大きな被害が発生しました。

その後、昭和49年の七夕豪雨や昭和57年の台風第10号でも甚大な被害が発生しています。

最近では、平成16年9月の台風第21号により、三重県の中南部を中心に大きな被害を受け、赤羽川、船津川や横輪川などで破堤したほか、多くの河川で堤防の決壊や越水などが発生し、伊勢市、海山町（現紀北町）、紀伊長島町（現紀北町）で大規模な浸水被害がありました。

また、平成23年9月には紀伊半島大水害が発生し、県南部の相野谷川で破堤したほか、井戸川や志原川などの河川で堤防の決壊や越水などが多数発生し、熊野市、御浜町、紀宝町の居住地域等で大規模な浸水がありました。

さらに、平成29年10月の台風第21号により、三重県伊勢市の宮川下流域で、累積雨量が観測史上最大の584㎜を記録しました。これにより、伊勢市内では約1,800棟以上の浸水被害が発生しました。なお、本治水大会の市町意見発表にて、伊勢市より台風第21号の経験を踏まえた発表を行います。

近年の水害の写真

二級河川井戸川の氾濫状況
（H23台風第12号熊野庁舎・三重県熊野市）

一級河川勢田川流域の浸水状況
（H29台風21号外宮参道・三重県伊勢市）

現在、本県では、平成24年度に長期的な観点から三重のあるべき姿を展望し、県政運営の基本姿勢や政策展開の方向性を示した「みえ県民力ビジョン」を策定し、社会情勢の変化に対応し、県民の皆さんと力を合わせて新しい三重づくりを目指しており、この計画に基づき、治山・治水・海岸保全の推進に取り組んでいます。さらに、令和2年4月からは「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」をスタートさせ、「みえ県民力ビジョン」が掲げる基本理念「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を具体化するため、更なる取り組みを行っています。

県管理の河川では、時間雨量60㎜の雨による洪水を安全に流下させることを最低限の目標として整備を進めていますが、河川整備率は39.6%と低く、毎年のように浸水被害が発生しています。そのため、地域の治水安全度を向上させる必要があり、効率的・効果的な河川改修に取り組んでいます。

また、南海トラフ地震等の大規模地震への備えとして、河口部にある大型水門や排水機場の耐震対策を進めるとともに、河川改修にあわせて堤防の耐震対策を実施しています。

しかし、自然災害から人命を守るには、ハード対策のみでは、限界があるため、雨量・水位情報、カメラ画像の提供などのソフト対策を組み合わせることにより、被害の最小化を目指して取り組んでいます。

中部地方治水大会をはじめ、三重県に来県された際には、伊勢神宮や熊野古道などの観光名所を訪れ、歴史や風光明媚な景色を楽しんでいただき、松阪牛や伊勢海老などの三重の特産品をご賞味いただきいただければと思います。

最後になりますが、令和2年度中部地方治水大会においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場時の消毒、マスクの着用、座席空間の確保等の対策をできる限り行いますので、皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

伊勢内宮前　おかげ横丁

三重とこわか国体・三重とこわか大会

近畿地方治水大会の開催について

令和2年10月26日（月）　15：00～
奈良県コンベンションセンター 天平ホール
奈良県 県土マネジメント部 河川整備課

今年度の近畿地方治水大会事務局を担当する奈良県から、本県のPRも含め、ご案内申し上げます。可能な限り、多くの関係者のご参加をお願いいたします。

【奈良県のすがた】

奈良県は近畿地方のほぼ中央に位置し、面積は3,691㎢、これは日本の国土面積の約100分の1の大きさです。県土のおよそ3分の2を森林が占め、南部の吉野山地と東部の大和高原、北西部の奈良盆地に大別すると、その地勢や気候の差違は大きく、北西部が盆地気候で寒暑差が激しく寡雨であるのに対し、山岳部はやや冷涼で多雨、特に大台ヶ原は日本でも有数の多雨地帯で、大正年間には一日に1,200㎜もの降雨を記録しています。

奈良公園（紅葉の様子）

【河川の現況】

海のない奈良県の河川は、奈良盆地を流れる大和川水系、大和高原を流れる淀川水系、吉野山地を流れる紀の川水系、紀伊山地を流れる新宮川水系の4つの水系からなり、それぞれの水系エリアが、地形的にも気候的にも、また歴史・文化や産業の点からも、異なる地域区分を形成しているといえます。

奈良県の気候は、概ね温暖ですが、北部の北西部大和盆地では内陸性気候、北東部大和高原では内陸性気候と山岳性気候の特徴があり、気温の日較差が大きく、夏は暑く、冬は寒くなります。

また、大台ヶ原を中心とする南部山地は、日本屈指の多雨地帯であり、夏の雨量が極めて多く、冬は厳しい冬山の様相になります。

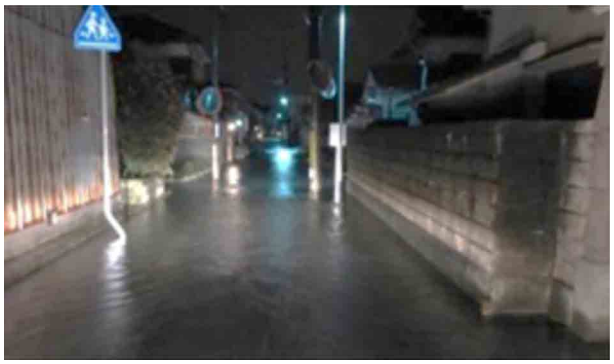
奈良県は災害の少ない地域だと言われてきましたが、平成23年9月、台風12号の大雨がもたらした和歌山県、三重県、奈良県の三県に跨る「紀伊半島大水害」は、近年類を見ない災害となりました。奈良県では南部・東部地域を中心とした主に山岳部の広範囲に被害が及び、深層崩壊と考えられる大規模な斜面崩壊や崩壊土砂による河道閉塞の発生、道路網やライフラインの寸断など、生活や産業に深刻な打撃を与え、数多くの人々の尊い命や暮らしを一瞬にして奪い去り、山河に大きな爪痕を残しました。

これまで様々な方面からのご協力とご尽力をいただきながら、復興に取り組んでまいりました。

紀伊半島大水害 主な復旧箇所（十津川村武蔵地区）

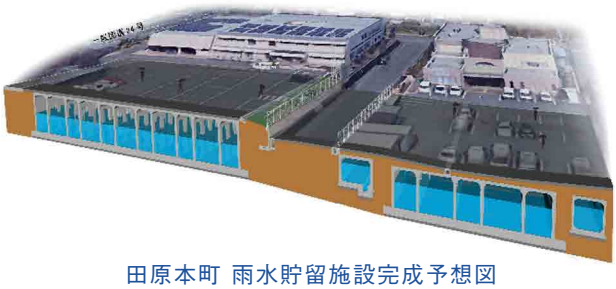
【近年の浸水被害と今後の取り組み方針】

平成29年10月の台風21号や平成30年7月豪雨でも、大和川流域において大規模な内水被害が発生し、県内各地に様々な爪痕を残しています。



平成29年の台風21号の際の内水被害状況

平成29年10月の台風21号では内水氾濫によって大規模な浸水被害が発生しました。従来の治水対策に加え、こうした内水被害を解消することが喫緊の課題となっています。このような状況を踏まえ、平成30年5月に内水氾濫による床上・床下浸水被害の解消に向けて、必要な貯留施設等を適地に整備していく『奈良県平成緊急内水対策事業』がスタートし、その先陣を切って田原本町が雨水貯留施設整備工事に着手しています。田原本町社会福祉協議会駐車場及び田原本町埋蔵文化財センター駐車場において、令和3年春の竣工を目指して工事が進められています。



田原本町 雨水貯留施設完成予想図

昭和57年8月、県内で死者行方不明者16名、浸水家屋1万2000戸以上という甚大な被害をもたらした大和川大水害から37年が経過しています。県人口の90%、資産の80%が集中する県北西部を流域とする大和川水系は、扇の形のように四方の山々から流れ出した157本もの支川が、大和川に合流しながら1本の流れとなり、亀の瀬と呼ばれる渓谷を経て大阪湾に至ります。地形的な特徴に加え、近年の急速な市街化により、建物が立ち、地面がコンクリートやアスファルトで覆われることで土地の保水力が低下し、ひとたび大雨が降れば一気に川が増水し、浸水被害が発生しやすくなっています。大水害の記憶を風化させることなく、国・県・市町村が協力して水害に強いまちづくりを加速することが重要です。

現在、大和川流域では、「大和川流域総合治水対策協議会」を組織し、河川改修やダム建設等を行う「ながす対策」と、流域貯留施設やため池治水利用等の「ためる対策」とをあわせた総合的な治水対策に取り組んでいます。

【近畿地方治水大会の開催】

本大会は、「奈良県コンベンションセンター」を会場とし、平城宮跡歴史公園に隣接しています。通常は様々なイベントを企画し、来園者をおもてなししていますが、本年については新型コロナ感染症のため、開催中止や開催見直しが発生しておりました。今後は感染拡大を防ぐため、ソーシャルディスタンスを厳守した上で各種イベント等を企画し、来園者をお待ちしているところです。また近隣にも観光名所が集中しています。一つは毎年10月末より開催されている、奈良国立博物館の正倉院展が開催の予定であり、毎年多くの来場者が訪れます。また奈良公園と言えば紅葉の名所でもあり、美しく彩られる木々と公園内で戯れる野生の鹿たちには、きっと心を和ませられるはずです。治水大会とともに、秋真っ盛りの奈良を満喫していただければ幸いです。この機会に是非、本県にお越し頂き、奈良県の多彩な魅力を発見してみてください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

県営平城宮跡歴史公園

中国地方治水大会の開催について

令和2年10月12日（月）　13：30～
松江市　くにびきメッセ
島根県土木部河川課

今年度の中国地方治水大会事務局を担当します島根県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【島根県のすがた】

島根県は、中国地方の北部にあり、東は鳥取県、西は山口県、南は中国山地をへだてて広島県と接しております。また、北は日本海に面しており、島根半島の北方40～80キロの海上には、島前・島後などから成る隠岐諸島があります。

県の特徴として、東西に長くおよそ230キロあり、面積は約6700㎡で全国19番目(中国地方では3番目)となっています。人口は約67万人で全国46位となっており、今から100年前の1920年(大正9年)の人口は約71万人であることから、大正時代よりも人口が少ないこととなります。こうした状況を踏まえ、島根県では県行政における最上位計画「島根創生計画」を今年3月に策定し、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を実現するため、様々な政策・施策に取り組んでいます。

気候は、地域差があまり大きくありませんが、東部は寒候期に季節風の影響を受け、出雲平野では非常に強い風が吹くことがあります。また、山陰と名の付くとおり年間通して曇や雨の日が多く、年間降水量は1,600㎜～2,300㎜となっています。平地より山間部で降雨量が多く、特に梅雨末期の前線移動に伴った集中豪雨を受けることが多くあります。一方で、このような気候であるがゆえに、空気中の水分量が多く、日照時間が少ないことから、肌への影響が少ないため、島根県は大手化粧品会社の㈱ポーラが実施している美肌県グランプリで5回も1位に選ばれており、「美肌県しまね」としてPRもしています。

産業面では、日本海に面していることから、漁業が盛んであり、総漁獲量は中四国で最も多くなっています。また、シジミの漁獲量は全国の4割以上を占め、宍道湖は日本一のシジミ産地となっています。

島根には縁結びの最強スポット「出雲大社」や世界遺産「石見銀山」、ユネスコ世界ジオパーク「隠岐諸島」など、沢山の観光スポットがあることから、国内外から多くの観光客が訪れています。

＜稲佐の浜・出雲大社神楽殿＞

＜石見銀山 龍源寺間歩＞

写真提供:隠岐の島町役場

＜隠岐 ローソク島・国賀海岸＞

【河川の現況】

県内の河川の多くは中国山脈に端を発し、北斜面を流下して日本海に注いでいます。河川法の適用を受ける河川は一級河川が斐伊川水系・江の川水系・高津川水系の計3水系で456河川、河川延長は約2,300キロで、二級河川が浜田川水系など71水系で145河川、河川延長は約660キロとなっています。このほか河川法が準用される準用河川が35水系で128河川、河川延長は約140キロとなっています。

一級河川の斐伊川、江の川、高津川は古来よりその流域の発展に大きな影響を与えており、中でも県東部を流れる斐伊川は、その流域が古代から現代に至るまで、山陰地方の政治、文化、経済の中心として発展してきました。また、中国山脈を貫流し日本海へ注ぐ中国地方最大の河川である江の川は、山陽と山陰を結ぶという点で古くから交易の要路とされてきま

した。さらに県西部にある益田平野の発展に大きく寄与した高津川は、国土交通省が取りまとめている、一級河川の水質現況において「水質が最も良好な河川」の1つに令和元年度も選ばれており、今回で7回目の水質日本一となりました。

＜清流日本一高津川の源流＞

【近年の浸水被害と治水対策】

島根県はその地理や気候、そして県下全域が特殊土壌地帯(マサ土)に指定されおり、風化侵食を受けやすい地質であることから、これまで幾多の災害により大きな被害に見舞われてきました。

○斐伊川流域

一級河川である斐伊川は、古代からたびたび氾濫を繰り返しており、その様をオロチになぞらえ「八岐大蛇伝説」として古事記にも登場しています。近年では昭和47年、平成18年に甚大な被害が発生した豪雨に見舞われました。

斐伊川本川では昭和47年災害を契機洪水として直轄事業で「斐伊川治水3点セット」と呼ばれる治水対策を実施しており、上流では尾原ダム・志津見ダムの建設、中流では斐伊川放水路を新設、下流部では大橋川の河道拡幅といった対策を行っています。

＜松江市街地 S47豪雨での浸水状況＞

＜斐伊川治水3点セット＞

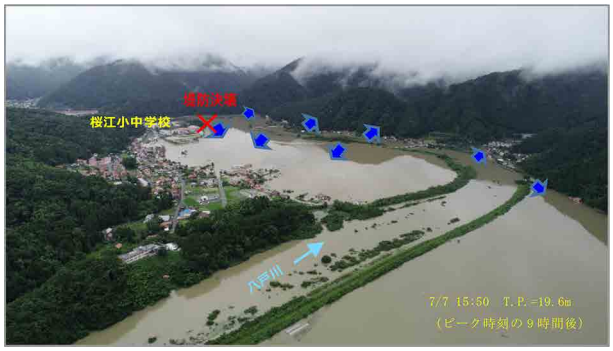
○江の川流域

県中部を流れる江の川とその流域では、近年も浸水被害が頻発しており、平成30年7月に続き、今年の7月にも甚大な被害をもたらした豪雨に見舞われました。50年に1度程度の豪雨がわずか2年の間に2度も沿川を襲い、島根県側の各地で越水・溢水による被害が発生しました。これらの豪雨により浸水被害を受けた住民も多く、河川改修を望む声が多数寄せられています。

県が管理する支川の八戸川でも江の川の背水現象により、氾濫危険水位を越え、堤防が越水・破堤し、地域住民の生活に大きな影響を及ぼしました。

特に平成30年7月豪雨では水位が既存の堤防高を超え、浸水面積が約100ha、被災家屋は約50戸にも上り、小中学校も浸水したほか、県道も通行止となりました。

このように有堤部からの越水が発生し、重要施設の浸水被害が生じたことから、災害復旧事業として「河川災害関連事業」が採択され、被災した約1.2キロ区間を3ヵ年かけて復旧にあたっています。



＜平成30年7月豪雨（八戸川）＞

＜八戸川 災害復旧状況＞

このほか、島根県では各地で豪雨被害を受けており、今年の7月には県東部の松江市や出雲市でも護岸を溢水し、家屋や線路が浸水する被害が発生しました。また、8月には西郷雨量観測所で観測史上1位の日雨量を記録する雨が隠岐の島町を襲い、県が管理する銚子ダムでは非常用洪水吐から越流するなど記録的な雨となりました。

このように今もなお各地で被害が発生している状況にあり、より一層、治水対策を進めて行く必要があるため、ハード対策・ソフト対策の両面から、治水安全度の向上に努めています。

【中国地方治水大会の開催】

10月12日（月）に令和2年度中国地方治水大会を松江市のくにびきメッセで開催いたします。

この大会では、島根大学　生物資源科学部及びエスチュアリー研究センター　流動解析部門で水環境問題や水文気象等の研究をされている矢島（やじま）　啓（ひろし）教授に「これからの川とのつきあい　ー知と想像力の融合ー」と題して、記念講演をしていただくこととしています。

また、松江市と江津市にはこれまでの豪雨災害への対応や、防災・減災の取組みなどに関する意見発表を行っていただきます。

会場である松江市には2015年に国宝指定された「松江城」や美肌の湯である「玉造温泉」などがあり、また日本三大そばの一つ「出雲そば」や不昧流とも称される「茶の湯文化」など魅力ある観光地や食文化が多くございます。

コロナ禍の今、県を跨いだ移動には、十分ご配慮いただきつつも、この事態が収束した際には、当県にお越しいただき、ご紹介した場所や食、そして人など様々なものを通じて島根県とのご縁を結んでいただけたらと思います。

本大会の開催にあたり、新型コロナウィルス感染症に留意し、予防・拡大防止対策を十分に行いながら大会を運営いたします。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

四国地方治水大会の開催について

令和2年10月23日（金）　13：30～
高知市　ホテル日航高知　旭ロイヤル
高知県土木部河川課

令和2年度四国地方治水大会の事務局を担当します高知県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。今年は、新型コロナウイルスに伴う情勢の変化に鑑み、規模を縮小しての開催となりますが、関係者の皆さまのご参加をお願いいたします。

【高知県のすがた】

本県は四国の南部に位置し、県北部は四国山地に沿った急峻な地形で、四国カルスト、笹ヶ峰、梶ヶ森、三嶺などを代表とする景観も優れた山々が連なっています。

南は太平洋に扇状に開かれ多様な海岸線が形成されており、東の室戸岬はユネスコの世界ジオパークに認定され、西の足摺岬は足摺宇和海国立公園に指定されています。

山地と海に挟まれた地勢は自然豊かで、私たちに多くの恵みをもたらし、たくさんの方々にお伝えしたい魅力があふれています。こうしたことから、高知の自然をはじめ、食、文化などをお伝えするため、現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止にしっかりと取り組みながら、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」セカンドシーズンを始動させています。

【河川の状況】

県内を流れる河川は、一級河川が4水系で393河川・延長1,923㎞、二級河川が97水系で271河川・延長1,243㎞となっています。

県中央北部を流れる一級河川吉野川は本県北部を源流として徳島県に流れる全長194㎞の河川です。早明浦ダムは四国総合開発の要として本県に建設された多目的ダムで、四国4県に用水を供給し「四国のいのち」と呼ばれています。

仁淀川　水中写真
画像提供:一般社団法人仁淀ブルー観光協議会

にこ淵　（仁淀川支川）
画像提供:一般社団法人仁淀ブルー観光協議会

県中央東部を流れる一級河川物部川は延長71㎞で山間地を急勾配で流下し、下流部に形成された扇状地は古代の土佐国の中心地であり、平安時代の歌人、紀貫之が国司として留まりました。

県中央西部を流れる一級河川仁淀川は水質の良好な全長124㎞の清流で、青く映える美しい水面は「仁淀ブルー」と呼ばれ人気を博しています。一方で治水面では下流部の沖積平野で合流する支川群の流域が極めて低い地形であるため、昔から支川低地の浸水対策が課題となっています。

県西部を流れる一級河川四万十川は全長196㎞で日本最後の清流と呼ばれています。知名度も高く、豊かな自然が残された本県の持つ豊かな自然を象徴する河川です。

県都である高知市街を流れる全長31kmの二級河川鏡川は治水上も極めて重要な河川です。市の水源でもあり、鮎漁、遊泳など住民に親しまれています。本県出身の偉人、坂本龍馬の幼少時、教師に「川での水練を雨天のため中止する」と告げられたが、「雨に降られるも川で泳ぐも濡れるに変わりない」と言い一人、鏡川で泳いだとの話も残っています。

県東部を流れる奈半利川は全長61㎞で県内最長の二級河川です。流域は日本でも屈指の多雨地域でかつ急勾配であることから、昭和30年代に魚梁瀬ダムなど3つの発電ダムが建設され、日本の産業を支えてきました。一方でダム下流では湛水による濁水の長期化が環境面での課題となっており、現在、上流支川からダム下流に河川水をバイパスし濁度を改善する環境対策事業に取り組んでいます。

【災害の歴史と河川事業】

本県の気候は、南側は温暖な海、北側が急峻な山地のため、南風が卓越する春から秋にかけ降雨が多く、さらに台風の襲来も多いことから、山間部で年間降水量が4,000㎜に達する箇所もあるなど、日本でも有数の多雨地域です。そのため、本県はこれまでに多くの災害を経験してきました。

昭和45年8月の台風10号では、潮位偏差2.35mと推定される異常な高潮が発生し、県下で13名が犠牲となり、床上浸水は26,001棟に及びました。本県ではこれを期に高潮対策事業を開始し、高知市を中心に延長53㎞の河川堤防整備に取り組みました。この高潮事業が現在も地震高潮対策事業に引き継がれています。

昭和50年8月の台風5号は、県中央部を中心に高知市北部の柿ノ又雨量観測所で3時間雨量312㎜を記録する豪雨をもたらしました。これにより仁淀川、鏡川で出水し、山崩れや土石流も続発する大災害となりました。県下の被害は床上浸水12,564棟、床下浸水19,734棟、77名が犠牲になりました。

翌年の昭和51年9月にも台風第17号が襲来し県中部や東部を中心に豪雨となりました。高知市で日雨量524.5㎜、総雨量1,305㎜に達し鏡川が破堤、高知市の浸水被害は床上11,720棟と、連年の大災害となりました。この連年災害を契機に鏡川の治水計画が大幅に見直され、河川激甚災害対策特別緊急事業による整備が行われました。

平成10年には9月24日から25日にかけて秋雨前線により県中部を中心に激しく雨が降り、高知市で1時間雨量129.5㎜、日雨量628.5㎜という観測記録を更新する豪雨となりました。県中部では複数の河川が氾濫し、県下の被害状況は、死者8名、床上浸水8,341棟、被害総額は約660億円におよびました。この被害をふまえ本県では高知市東部を流れる国分川の河川激甚災害対策特別緊急事業に着手し17㎞にわたる河川改修を行いました。

平成10年高知市東部が水没

平成13年9月には秋雨前線により6日未明から早朝にかけ大月町で時間雨量110㎜を観測するなど県西部で豪雨となり、床上浸水264棟、床下浸水540棟の被害が発生しました。夜半から早朝にかけ、山地崩壊も多発した深刻な状況であったにもかかわらず、犠牲者はでませんでした。これは、地元の強い連携により避難行動要支援者情報が共有され、消防団や区長を中心に人命を優先とする迅速な避難が実施されたためでした。

平成26年には台風12号によって仁淀川町で累加雨量が8月4日に1,000㎜を越え、さらに　8月10日に本県に上陸した台風11号でも同町で累加雨量900㎜を越えるなど豪雨が続き、県下各地で被害が発生しました。特に仁淀川支川日下川では延べ247戸が、同支川宇治川では294戸が浸水したことから、床上浸水被害の解消を目標として、国、県、町村が連携し、両河川で床上浸水対策特別緊急事業を進めています。

平成30年7月には梅雨前線により馬路村魚梁瀬において、降り始めからの総降水量が1,845㎜を観測したほか、本県では初めてとなる大雨特別警報が気象庁から発表されました。安芸市内を流れる安芸川などで氾濫が発生するなど、県内各地で甚大な被

害が発生し、県下で死者3名、床上浸水129棟の被害が発生しました。

平成30年安芸川の堤防侵食状況

急峻な地形と多雨地帯である本県にとってダム事業は治水・利水両面で重要な事業です。四万十川支川中筋川流域の浸水被害軽減等を目的として、建設を進めてきた横瀬川ダムが本年6月より運用を開始しています。また、施設園芸地帯である芸西村の洪水対策及び用水供給を目的とした和食ダムが平成25年から本体工事に着手しています。

建設の進む和食ダム

洪水による浸水対策と並んで、本県の河川事業の喫緊の課題となっているのは、今後30年内の発生確率が70%から80%と言われる南海トラフ地震津波による長期浸水対策です。発生すれば強い揺れと巨大な津波の発生が予測されており、本県では平成20年から、地震高潮対策事業として人口の集中する高知市市街地を中心に液状化対策や排水機場の耐震対策を推進しています。

堤防耐震工事状況

【結びに】

暑苦しいほどにあったかい。飲んだら誰とでも仲良くなる。ご近所さんも初対面の人も大事にする。高知県には、都会で失われている「人と人のつながり」が、まるで高知県がひとつの大家族かのように息づいています。

本県は平成25年に「高知県は、ひとつの大家族やき。」を宣言し「高知家」をして高知県のファン拡大に取り組んでいます。

是非、この機会に県内各地の観光地を訪れていただきたいです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。